

令和元年8月13日

太田市議会議長

太田クラブ 代表 白石さと子 印

## 会派行政視察報告書

- 1 期日 令和1年8月6日（火）から8月8日（木）までの3日間
- 2 視察地
  - (1) 青森県 十和田市
  - (2) 青森県 八戸市
  - (3) 青森県 釜石市
- 3 視察事項
  - 1 とわだ産品販売戦略への取り組み及び十和田市美術館（アーツトワダ）について
  - 2 八戸ブックセンター及び八戸ポータルミュージアムについて
  - 3 魚河岸にぎわい創出施設及び釜石鵜住居復興スタジアム整備事業について
- 4 参加者 9名  
白石さと子 山田隆史 木村康夫 正田恭子 斎藤光男  
大川敬道 中村和正 八長孝之 木村浩明
- 5 視察概要 別紙の通り

## 8月6日（火）青森県十和田市議会

### とわだ産品販売戦略への取り組み及び十和田市美術館（アーツワダ）について

#### ○十和田市の概要

- ・面積 725,65km<sup>2</sup>（平成30年10月1日現在）
- ・人口 61,160人（令和元年6月末日現在）
- ・世帯数 27,622世帯（令和元年6月末日現在）
- ・市政施行 昭和30年2月1日
- ・一般会計予算額（当初） 平成30年度：321億5,000万円  
平成31年度：354億8,000万円
- ・議員定数 22人
- ・政務活動費（議員一人当たり月額） 30,000円

#### ○視察事項

十和田市の市街地は、「碁盤の目」に整然と区画された「美しい街並み」が特徴である。もともと陸軍軍馬局のあった場所が払い下げになり市はここを基礎として新しい都市計画づくりをしてきたからです。市役所は作り替えたばかりの真新しいものでした。

#### とわだ産品販売戦略

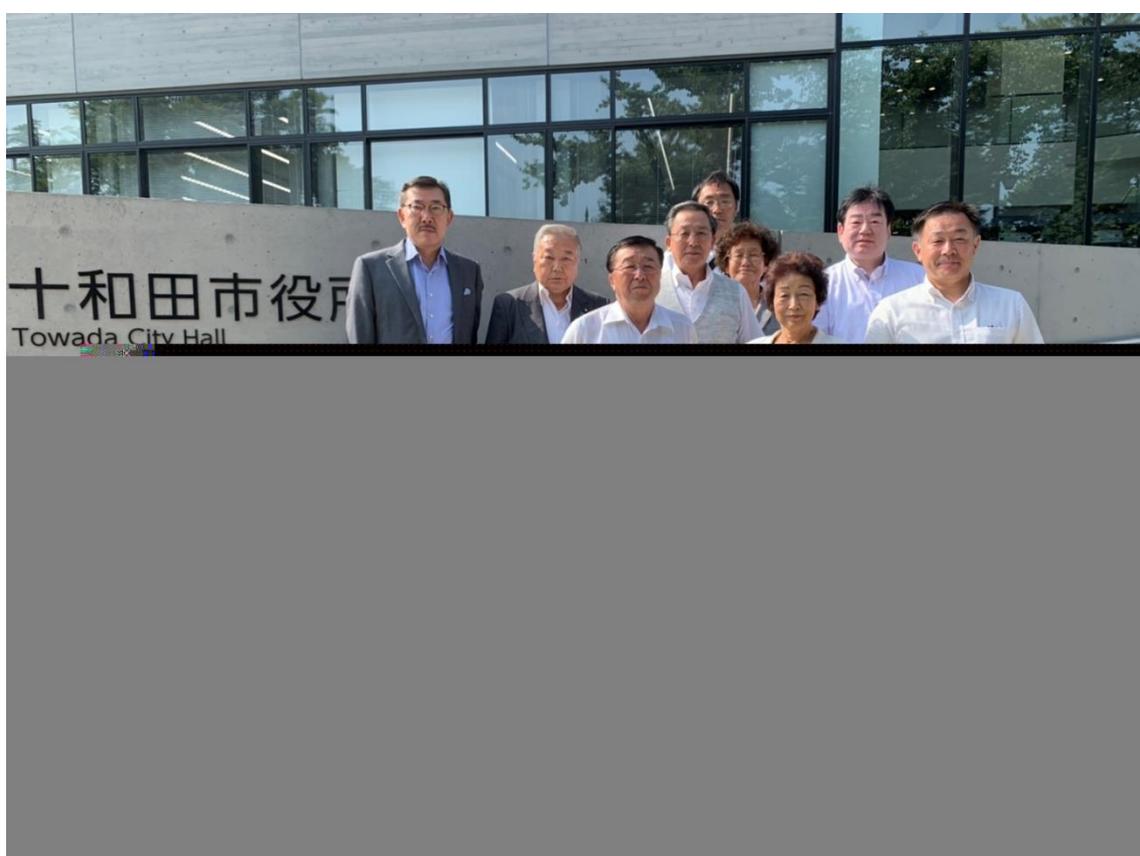
生産量日本一のにんにくをはじめ長いも、ごぼう、ネギ、蜂蜜等の農産物、特産物があるにもかかわらず売上げが伸びない現状を打開するため市役所の農業政策課内に「とわだ産品販売戦略課」を設立し、加工品開発やブランド化に取り組みPR戦略をたてて取り組んでいます。販売戦略に米が無いのはやませの影響で作柄が安定しないのと味も落ちるからだそうです。

給食は地産地消推進のため、とわだ産食材を購入する際に差額補助をして提供している。とわだ産品推進事業としてパッケージ作りや機械導入、海外にまで及ぶ販売開拓、経費にかかる補助など、6次産業化への支援を惜しまない。販売戦略室を設置しての取り組みは十和田市の意気込みを感じさせられる。本市の農産物もこのような取り組みをすれば効をそうするのではないかと実感しました。

## 十和田市美術館（アーツワダ）

もともとは市のシンボルロードである官庁通りに多くの空き地が出来たために、魅力的で美しい官庁通りの景観、未来へ向けた新しいまちづくりを目指し計画が立てられたものである。メイン通りの町並みは、美術館と同調するように設計され、多くの屋外展示物が通りに設置されている。美術館に来ている人の多くは、観光で美術館を目指して来ている人たちであり、近隣の十和田湖や奥入瀬と合わせ観光の中心的役割を担っている。

美術館の中には見る人に驚きを与えるものや、いろいろ考察させる展示物が多数あり、周りの公園のオブジェも含め特に、若い人や女性、家族連れに人気がある印象です。



8月7日（水）青森県八戸市議会

## 八戸ブックセンター及び八戸ポータルミュージアムについて

### ○八戸市の概要

- ・面積 305,56km<sup>2</sup>（平成30年10月1日現在）
- ・人口 228,418人（令和元年6月30日現在）
- ・世帯数 108,699世帯（令和元年6月30日現在）
- ・市政施行 昭和4年5月1日
- ・一般会計予算額（当初） 平成30年度： 997億円  
平成31年度：1,058億円
- ・議員定数 32人
- ・政務活動費（議員一人当たり月額） 80,000円

## 八戸ブックセンター

### ○ 取り組み

利益を追求しない公営書店として設立された、「本のまち八戸」のシンボルである。行政で書店を経営しているのは全国でも離島を除くと八戸だけ。「本のまち八戸」は、市長3期目の政策公約として掲げられ、市政運営の基本となる「第6次八戸総合計画（計画期間平成28～32年度の5ヶ年計画）」のうち、重点的に推進すべき5つのまちづくり戦略のひとつである「人づくり戦略 教育プロジェクト」の中に「本のまち八戸」の推進を位置づけています。市内の児童に市内書店で本を購入できる「マイブッククーポン」を配布し、保護者とともに書店に出かけ、自らほんを選び購入する体験を通して読書に親しむ環境を作っています。本が好きな子供たちが増えることを期待します。また、読むだけでなく本を書く人を育てる取り組みもあり、編集や出版を手伝っている。

### ○ 所感

「本でまちづくり」というのはどのようなことなのか、実際に取り組むのは難しいのではないかと思ひ視察にのぞきました。行政が書店を営む事への民間書店の理解は得られるのか。八戸ブックセンターの取り扱いの本は、民間の書店にはあまり置いていない専門書や学術書などが多い。売れ筋の雑誌や子供向けの絵本などの児童書をあえて置かないのは市内の民間の書店への配慮があるようである。このような細かい配慮によって理解が得られているようである。視察依頼も多数あるようで職員のかたは説明に大変そうだが、八戸市のアピールにも大いに役立っているように感じられた。また子供の頃から本を読む習慣をつけるよう取り組みがあり、教育的にも良い効果があると感じる。

## 八戸ポータルミュージアム（はっち）

### ○ 取り組み

八戸の玄関口として八戸の情報を発信し、まちなかや観光に誘う役割を担っている。新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸全体の活性化のため、平成23年にオープンした。ここに来ると八戸の歴史のすべてがわかるつくりになっているのは見事である。体験するスペースも数多くあり、噴水のある多目的広場も含め、視察当日もウィークデーながら人が集まり賑わいを見せている。

### ○ 所感

見応えのある内容であり訪れた人は興味を持ちながら八戸市のことを良く知ることが出来る施設になっている。訪れたひとが参加して体感出来るところがあることも、飽きさせない理由だろう。まち全体として公共交通機関も充実しており街中を歩いている人が多かったのが印象に残ります。人口は太田市と変わらない市ではあるが、地域の中心都市としての役割もあり商圈人口も多く太田市より大きな街のようです。



8月8日（木）岩手県釜石市議会

魚河岸にぎわい創出施設及び釜石鵜住居復興スタジアム整備事業について

○釜石市の概要

- ・面積 440,340  $\text{km}^2$ （平成30年10月1日現在）
- ・人口 33,317人（令和元年6月30日現在）
- ・世帯数 16,420世帯（令和元年6月30日現在）

- ・一般会計予算額（当初） 平成30年度：503億2,000万円  
平成31年度：447億5,700万円
- ・議員定数 20人（現在19人・欠員1名）
- ・政務活動費（議員一人当たり月額） 15,000円

### 魚河岸にぎわい創出施設整備事業

中心市街地の臨海部において、市民や観光客に釜石市の海を満喫してもらうことで、賑わいを創出し、その効果を市内にさせていくことを目的としている。1階には、水槽やキッチンスタジオを配備し、地元の海の幸を多角的に楽しめるようになっており、駐車場はイベント広場としての使用も可能となっている。

当日は、平日の朝9時と早い視察の時間であったためか来場者は殆どなく売店の陳列品も品数が少なかった。事業費5億4700万円の費用対効果を考えると今後の工夫に期待するところですが、海なし県の我々にとっては、見事に港が眺望できる点ではよい施設でした。

### 釜石鵜住居復興スタジアム整備事業

住民が集い、スポーツを楽しみ、健康作りや国際交流ができ、音楽、芸術に親しみ防災の知恵とラグビーの遺産を繋げて、自然に親しむ場所としての整備を行うことを目的に整備。マイクログラスファイバーを芝床にしたハイブリッド天然芝の採用、津波の際の緊急避難場所としての裏山の整備、緊急ヘリポート用地、耐震性貯水槽を備えるなど、特色がある。

実際に視察した印象ですが、現在ラグビーでワールドカップが開催されており仮設の席も用意され賑わいを見せているが、一部リーグも在籍しておらず二部リーグしか在籍していないことを考えると他の事業での集客、使用活用方法を検討してゆかなければ今後の運営は難しいのではないかと思います。

いずれにしても本スタジアムが復興のシンボルとして釜石の市民に夢と希望と勇気を与えるものとなってほしいと願うばかりです。

